

第21回フォーラム「医療の改善活動」全国大会in仙台 に参加して

芝原 啓子^{1,2)}, 辻 佳栄^{1,2)}, 細貝 瑞穂^{1,2)}, 平野 恵美^{1,2)}, 飛田 郁代^{1,2)},
長妻るり子^{1,2)}, 千葉 里砂^{1,2)}, 藤原 富夫^{1,3)}, 菊地 亮^{1,4)}

要 旨：2019年11月15日、16日に開催された第21回フォーラム「医療の改善活動」全国大会in仙台で看護部外来科、ひまわりサークルが発表した。新病院となり、患者が検査場所にスムーズに行けず困っていることに取り組んだ。外来は会計年度職員がほとんどだが、煩雑な業務の中800件のデータを展開し外来全体で取り組めたことに意味があったと思われる。活動結果を評価し正式なサインとして取り入れてもらったことは、今後のQC活動に対するスタッフの意識の向上につながったと思われる。看護の質のレベルアップを図るため、看護師には看護研究以外にも、QCの手法もマスターする努力、主体的に取り組む意識を向上する努力が必要と思われた。常に問題意識を持ちながら、今後もQC活動に取り組んでゆきたい。

キーワード：QC活動発表大会、外来患者案内、QC活動に対するスタッフの意識の向上

(雲南市立病院医学雑誌 2020;16(2):87-89)

令和元年(2019年)11月15日、16日に第21回フォーラム「医療の改善活動」全国大会in仙台があり病院代表として、看護部外来科、ひまわりサークルが発表した(図1)。

今回は新病院となり、患者が検査場所にスムーズに行けず困っていることを問題点として掲げ取り組んだ。煩雑な業務の中、800件のデータをもとに展開でき、外来全体で取り組めたところに大きな意味があったと思われる。

外来は、会計年度職員がほとんどであり、勤務時間もまちまちななか、話し合いを重ね活動を続けてきた。その結果を評価してもらい、正式なサインとして取り入れてもらったことは、今後のQC活動に対するスタッフの意識の向上につながったと思われる。

全国レベルの発表は、QCストーリーのそれぞれの手



図1 全国大会での発表

法が細かなところまで完璧に出来上がっていることを感じた(図2)。

¹⁾ ひまわりサークル, ²⁾ 雲南市立病院看護科, ³⁾ 雲南市立病事務部総務課, ⁴⁾ 雲南市立病事務部企画財政課
著者連絡先：芝原啓子 雲南市立病院看護科〔〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1〕
TEL：0854-47-7500 / Fax 0854-47-7501

E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp

(受付日：2019年12月1日, 受理日：2020年1月31日, 印刷日：2023年6月30日)

看護師は、看護研究には関わっているが、QCの手法には慣れていない。推進委員の丁寧で熱心な指導の下に行ってきたが、毎年少しずつでもQCの手法をマスターしていけるよう努力していく必要があると思われた。そして看護研究につなぎ、看護の質のレベルアップが図れば更に充実していくと思われる。

やらされる気持ちではなく、主体的に取り組みができるような意識の向上が必要であると思われた。常に問題意識を持ちながら、今後もQC活動に取り組んで

ゆきたい。

出雲空港から1時間余りで伊達政宗公のお膝元、「杜の都仙台」に到着した。ちょうど紅葉の時期であり、とても美しい街並みであった。名物の牛タンも堪能でき、とても楽しい、珍道中の2泊3日であった（図3）。

また、震災の話聞く機会もあり、いつ起こるか分からない災害についても考える機会ともなった。

このような貴重な経験を与えていただき感謝いたします。



図2 全国大会会場

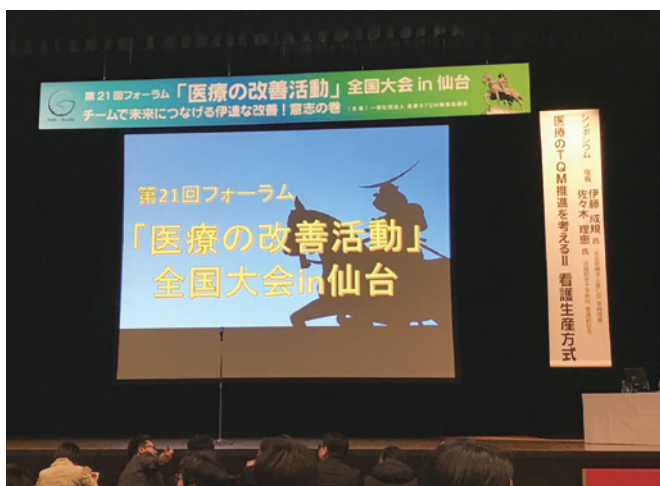


図3 開催地仙台の代表的風景と参加者

Participation report: The 21st Japanese Forum on Quality Improvement in Health Services in Sendai

Keiko Shibahara^{1,2)}, Kae Tsuji^{1,2)}, Megumi Hirano^{1,2)}, Mizuho Hosogai^{1,2)}, Kayo Tobita^{1,2)},
Ruriko Nagatsuma^{1,2)}, Risa Chiba^{1,2)}, Tomio Hujihara^{1,2)}, Makoto Kikuchi^{1,4)}

Abstract: The 21st Japanese Forum on Quality Improvement in Health Services was held under the theme of “disaster” in Sendai on Nov. 15 and 16, 2019, at which the division of outpatient department of nursing care, “Himawari circle” reported the results of in-hospital quality control (QC) activities. The difficulties patients experience moving in the outpatient department and clinical examination in our hospital were the chosen themes for the QC activities. It is important to perform the activities with all staff, including many non-full-time staff, despite their busy daily duties. It is also effective to continue QC activities independently, and our activities were evaluated. Sign boards were also used as part of the regular system of our hospital as proposed. Hospital nurses should perform and be familiar with QC activities other than nursing research. Speech concerning disasters was impressive and useful for our future activities.

Key words: Japanese Forum on Quality Improvement in Health Services; guide display board for patient; improvement of awareness of QC (quality control) activities of nursing staffs

¹⁾ Himawari circle, Unnan City Hospital, ²⁾ Department of nursing care, Unnan City Hospital,

³⁾ Planning and finance division, Unnan City Hospital, ⁴⁾ General affairs division, Unnan City Hospital

First author: Keiko Shibahara, Department of nursing care, Unnan City Hospital, [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]

Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501

E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp